

世阿弥"花"の思想展開

禅竹「六輪一露説」より補足

		前期 「風姿花伝」	中期 「花鏡」	後期 「九位」
花	花の定義	能は、花によって成立する		
		花は能を知ることと、わざ(種)をもつことで生まれる	花は究極において「無」の境地へと続く	花は究極において「無」である
	保つ方法	<ul style="list-style-type: none"> ・わが身を自覚する ・老後は「せぬ」こと ・芸の伝承 	<ul style="list-style-type: none"> ・是非の初心を忘れず ・わざではなく、心で演じる位 ・老後の初心 ・家と芸の伝承 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸が頂上を極めた後、初心以前の「無心」にかえる
能を知る		<ul style="list-style-type: none"> ・花 = 珍しさ = 面白さである ・時機をとらえる ・秘すこと ・目利きにも目利かずにも訴える ・序破急 ・自然の順逆に従う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ珍しいだけではなく、より良いものを目指す ・対応力が必要 ・都の目利きを鏡とする ・序破急も臨機応変に ・高度な芸 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の心のはたらきではなく、能の根源的な力にめざめる
わざ		<ul style="list-style-type: none"> ・物数をきわめる ・作能をマスター ・稽古は強く、慢心は捨てよ ・初心を忘れず ・十体をマスター ・幽玄である 	<ul style="list-style-type: none"> ・新作と改作の奨励 ・歌舞を重視する ・時々の初心を忘れず ・用にとらわれず体を確実につかむ ・幽玄である ・二曲三体 ・技術の熟達 	<ul style="list-style-type: none"> ・わざにはとらわれず